

すごい point

- ・日本五大名飯に選ばれた可児の郷土料理だよ。

可児には、「さよりめし」という郷土料理があります。

さよりめしは、私たちの住んでいる可児市をふくむ、ちゅうのう中濃・とうのう東濃地区で、ごちそうとして食べられていた炊きこみご飯です。秋の収穫を祝うときや、家でお祝いごとがあったときに特別につくるもので、ぜいたくな料理でした。



「可児ッテ」で販売されたさよりめし

◎どうして「さよりめし」って呼ぶの？

「さよりめし」には、「さより」という魚ではなく「さんま」が使われています。

「さより」と「さんま」は、あまり似ていませんが、どちらも「だつ」という細長くてとがったかたちをしている魚の仲間です。

海が近くにはない可児の人は、海の魚について細かな区別をせず、本当は「さんまめし」であっても「さよりめし」と呼んでいたようです。

◎生活の知恵が生んだ「さよりめし」

家に冷蔵庫がなかった時代、なまざかな生魚はすぐに腐ってしまうので、可児の人たちは新鮮なしんせんお刺身さしみを食べることができませんでした。海の魚は遠くからやって来る行商人から、ぎょうしょうにん干物ひものや塩漬しおづけにしたものを買っていました。さんまをご飯ごに炊きこむ「さよりめし」は、新鮮ではない魚をおいしく食べるための、可児の人たちの工夫でもあったのです。

◎五大名飯に選ばれろ

この「さよりめし」は、昭和14年（1939）に宮内省（現在の宮内庁）が選んだ「日本五大名飯」に、「ふかがわ深川めし（東京）」、「ちゅうしちうずめめし（島根）」、「さいたま忠七めし（埼玉）」、「おおさかかやくめし（大阪）」と並んで選ばれています。これは、国が選んだ元祖ご当地グルメともいえます。

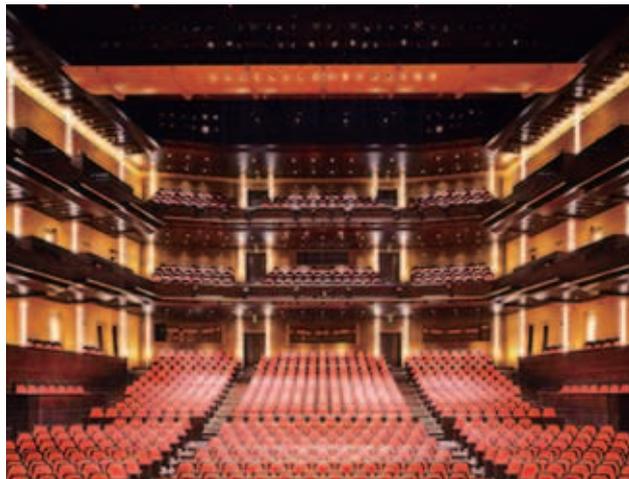
現在、「さよりめし」を作る家庭は少なくなりましたが、市のイベントや道の駅「可児ッテ」において、秋～冬限定で再現されたものを食べることができます。

—可児のむかし話 「福さとキツネとサヨリめし」—

「可児のむかし話」に「福さとキツネとサヨリめし」というお話がのっています。これは、病気で寝こんでいた福さのばばさまに、ぜんだいじやま禅台寺山のキツネがのりうつって「さよりめし」を食べるといってお話です。キツネの助けを借りて、おいしい「さよりめし」をたくさん食べた福さのばばさまは、病気がなおって元気になりました。「さよりめし」はキツネも食べたくなるようなごちそうなのでした。



文化創造センター ala (アーラ)



主劇場・宇宙のホール

すごい point

- ・だれでも気軽に利用できる、劇場施設だよ。
- ・市民一人ひとりが主役！市民参加型の事業がたくさん行われているよ。

アーラ（可児市文化創造センター）は、建設計画や運営に市民の意見と参加を取り入れて平成14年（2002）にオープンした文化施設です。アーラは、人としてだれもが主役となる場所です。

アーラには、主劇場「宇宙のホール」と小劇場「虹のホール」の2つの劇場があり、音楽会や演劇、式典などさまざまなイベントが催されています。

専門的な設備と優秀なスタッフに支えられたアーラは、全国で12か所の「総合支援劇場音楽堂」に選ばれており、全国トップレベルの劇場であるといえるでしょう。

アーラには、劇場のほかにも、練習する部屋、会議する部屋、映画をみる部屋、展示する部屋、レストランなど、たくさんの部屋があり、いろいろな用途でだれでも利用できることが魅力です。

◎市民一人ひとりが主役

大きな劇場のあるまちは、たくさんあります。しかし、可児市のアーラが日本中のどの劇場施設よりもすごいところは、なんといっても市民とアーラ、そして文化・芸術との距離がとても近いところです。

一流の音楽家や歌手、落語家や俳優が公演するアーラですが、みなさんは客席で観るだけでなく、ステージに立つこともできるのです。

市民が一流のアーティストと同じ舞台、同じ環境で活動することや、プロの俳優やスタッフと一緒に作品をつくりあげることでもできるアーラは、可児市が世界にほこるべき文化施設です。

市民ミュージカル
「君といた夏 ～スタンドバイミー可児～」



こども110番の家（広見地区）

こども110番の家（^{てんぼ}店舗）

すごい point

- ・日本全国にある「こども110番の家」は、可児市で最初に始まったんだよ。
- ・現在、可児市には全部で580か所のこども110番の家があるよ。

◎「こども110番の家」って何をするとこ？

「こども110番の家」とは、みなさんが登下校中や友達と遊んでいて、知らない人にあとをつけられたり声をかけられたりして、不安や危険を感じた場合に助けを求めることができる場所のことです。

「こども110番の家」では、まずはみなさんを^{ほご}保護した後、すぐに警察と学校、お家へ連絡してくれます。

みなさんの通学路周辺の民家やお店などが、「こども110番の家」になっています。

◎全国で最初に可児市で始まる

この「こども110番の家」が設置されたのは、日本全国で可児市が最初でした。

平成8年（1996）3月に、今渡北小学校のPTAが中心になって始まった「こども110番の家」の活動は、みなさんの安全を守り犯罪を未然に防^{みぜん}ぐ大切な活動として、全国各地に広がりました。

現在、こども110番の家は可児市内に580か所あります（R6.3現在）。

可児市では、毎年、小学校区ごとに「こども110番の家マップ」を作成し配付することで、「こども110番の家」がどこにあるのかをわかるようにしています。



こども110番の家マップ



可児市子育て健康プラザ mano (マーノ)

おごい point

- ・新しい命が、お母さんのおなかに宿^{やど}ったとき（マイナス10ヵ月）から、サポートするよ。
- ・いじめのない市をめざして！全国初のいじめ防止条例をつくったんだ。
- ・可児市子育て健康プラザ mano（マーノ）が、可児駅前にあるんだ。

◎ マイナス10ヵ月から つなぐ まなぶ かかめる 子育て

子育てををするお父さんお母さんは、実は不安やなやみでいっぱいです。

そこで、可児市では、お母さんのおなかに新しい命が宿ったとき（マイナス10ヵ月）から、担当する保健師^{ほけんし}さんがついて、子育てのサポートをスタートさせます。

出産後は、市民ボランティアや地域の人などいろんな人が子育てにかかわって、元気な子はさらに元気に、心配がある場合は安心して子育てできるように、全ての子育て家庭によりそったサポートを行っています。

◎ いじめのない市をめざして

可児市では市役所、学校、みんなのお父さんお母さんや大人たちが、いじめをなくすための決まり【可児市こどものいじめの防止に関する条例】を全国で初めてつくりました。可児市子育て健康プラザ mano（マーノ）の中には、いじめで悩んでいる子が学校以外で相談できる場所「いじめ防止専門委員会」があります。いじめられた経験は大きくなっても心の傷としてずっと残ります。可児市全体で少しでもいじめをなくして、みんなが健やかに成長するために取り組んでいます。

◎ 可児市子育て健康プラザ mano（マーノ）

可児市子育て健康プラザ mano（マーノ）は、“可”能性あふれる“児”（こ）がそだつまち 可児のシンボルとして平成30年にできました。

マーノには市役所、保健センター、子育てサロンや児童センター、その他に、市民支援室などの子育てを応援するところがぎゅっと詰まっています。

愛称の「マーノ」は、イタリア語で「手」という意味です。お父さんお母さんが安心して子育てできるように、いろんな人が「手」と「手」を取り合って支えるまちに、そんな願いが込められています。



マーノのシンボルマーク